

# 第4章 ～魅力～

魅力ある産業をはぐくみます

- 1 農林水産業
- 2 商工業
- 3 観光交流

## 基本方針 3 ～ 魅力 ～ 魅力ある産業をはぐくみます

### 1 農林水産業

#### 現況と課題

##### 〔農業〕

農業は、本町の主産業として発展してきました。近年は、高齢化の進行と後継者不足など農業を取り巻く環境が変化し、農家数、経営耕地面積等は年々減少しています。特に、農業従事者の高齢化や後継者不足により、零細な専業農家が増え、農業を生計の中心とする第1種兼業農家の減少が著しい傾向にあります。

近年は、ほ場整備等により農業生産基盤の条件が良くなったことで、機械化による農作業の省力化が図られるようになり、コメを中心とした農業のほかに、丹波地域特有の自然を生かし重点転作物として生産を奨励してきた黒大豆や小豆が丹波ブランドとして定着しました。最近では、ハウス施設等によるブランド京野菜などの生産が増加しています。

しかし、多くの中山間地域がある中で、農業従事者の高齢化と担い手不足により、農地の荒廃や遊休農地の増加など農業の維持にかかわる問題、さらには、農地が持つ多面的機能の維持にかかわる根本的な問題を抱えています。こうした中で、地域ぐるみの営農組織やUJ1ターナー者を含めた新規就農者など多様な担い手の育成が必要となるとともに、小規模農家の経営対策が課題となっています。

畜産は、本町の農業生産販売額の2分の1を占めており、府内トップクラスの産業となっています。畜産農家においては、家畜排せつ物について処理施設による堆肥化等の適正管理に努めていますが、一方で生産堆肥の利用は円滑に進んでいない状況です。このため、資源循環を重視し地域が一体となって堆肥を活用する地域農業の確立に向けた取組を推進する必要があります。

##### 〔林業〕

林業は、木材需要の低迷や労働力の不足により後退してきています。これが影響して、枝打ち、間伐等の手入れをしないで放置される森林が増え、森林環境が悪化する傾向にあり、林業経営はもちろん、国土の保全、水源かん養、地球温暖化防止などの森林が持つ多面的機能が損なわれ、生活に深刻な影響を及ぼすことが懸念されはじめています。

このような森林環境の悪化により、全国に名を高めてきた丹波マツタケの生産量は激減するとともに、有害鳥獣による農林作物の被害は後を絶たない状況となっており、特に有害鳥獣防除柵等による被害防止対策の充実が急務となっています。

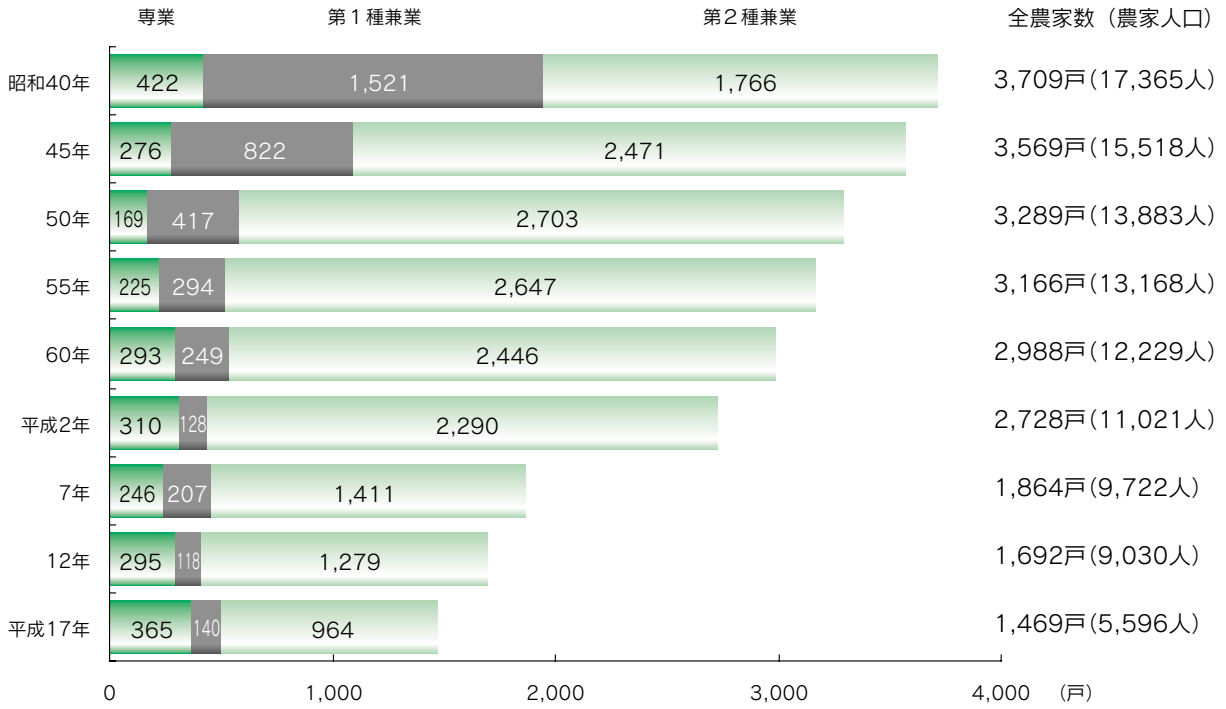
また、丹波ブランドのひとつ「丹波栗」の生産振興とともに、キノコの新たな主力品目として、間伐材を活用したハタケシメジの生産とブランド化に向けた取組みも進められています。

##### 〔水産業〕

水産業については、和知川漁業協同組合において由良川と上和知川でアユ、アマゴの内水面漁業が営まれています。また、由良川漁業組合において土師川でアユの内水面漁業が営まれています。

近年は、河川環境の変化をはじめ外来魚の繁殖などの問題を抱えており、長期継続的な対策が必要となっています。

## ■農家数・農家人口



農林業センサス (数値は旧3町の合計)

※平成12年、17年は販売農家のみ

※販売農家/経営耕地面積が30 a以上または調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家

## ■経営耕地面積

単位: ha

調査年	合計	田	畑	樹園地
昭和40年	2,268	1,850	326	92
45年	2,215	1,781	295	139
50年	1,909	1,528	206	175
55年	1,782	1,462	171	149
60年	1,686	1,419	152	115
平成2年	1,550	1,330	134	86
7年	1,512	1,308	129	75
12年	1,401	1,215	115	71
17年	1,122	1,016	66	40

農林業センサス (数値は旧3町の合計)

## ■家畜飼養戸数と飼養頭羽数 (平成17年2月1日現在)

	乳用牛		肉用牛		にわとり	
	飼養戸数	頭数	飼養戸数	頭数	飼養戸数	羽数
京都府	129	6,427	168	7,321	1,322	2,178,718
京丹波町	16	1,425	12	1,474	114	307,873

京都府統計書

## ■所有形態別森林面積 (平成16年4月1日現在)

単位: ha

	合計	国有林	公有林	私有林
京丹波町	25,098.68	207.89	1,836.91	23,053.88
(旧丹波町)	5,208.49	-	151.50	5,056.99
(旧瑞穂町)	9,070.18	207.89	1,076.77	7,785.52
(旧和知町)	10,820.01	-	608.64	10,211.37

京都府統計書

## 計画

### (1) 農業の振興

#### ① 農業振興に関する各種計画の策定

計画的で実現可能な農業振興を展開するため、各種方針や計画の策定に取り組みます。

##### 《取組み例》

- 農業振興地域整備計画の見直し
- 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想

#### ② 売れるコメづくりの推進

消費者の安心・安全や食味への志向が高まる中で、種子更新による品質の確保と良食味生産への取組みを進め、従来から実施してきた栽培履歴の記帳・減農薬・減科学肥料などにより、特別栽培米をはじめとする本町の環境や資源を生かした売れるコメづくりを推進します。

また、省力化による低コスト生産技術の一層の普及・定着を図るため、集落や旧村等を単位とした稲作経営の組織化と効率的な土地利用を進め、直播栽培、乳苗移植栽培等の新技術によるコメ生産を積極的に推進します。

##### 《取組み例》

- 京の水田農業総合対策事業
- 京の稲作担い手緊急支援事業
- 地域水田農業推進協議会の機能充実と活動強化

#### ③ 担い手の確保（農業後継者の育成）

零細・高齢農家の負担を軽減し営農意欲の維持・醸成につなげていくため、地域農業の担い手となる集落営農の組織化を進めます。

定住施策と連携した受け入れ態勢の整備や農業体験実習の実施等により、新規就農者や帰農者、他産業などを対象とした担い手の確保対策に地域、中核農家、行政等が一体となって取り組みます。

##### 《取組み例》

- 農業委員会運営事業
- 新規就農育成事業
- 水田農業構造改革対策助成

#### ④ 認定農業者の育成

認定農業者支援に関する制度の普及・宣伝活動を強化するとともに、京丹波町担い手育成総合支援協議会と連携し、認定農業者の育成を図ります。

## 《取組み例》

- 担い手育成資金利息助成事業
- 水田農業構造改革対策助成
- 認定農業者の育成

## ⑤ 営農組織の育成

特産物の栽培メリットの強化、付加価値の向上、流通経路の多様化、特産物を加工する他企業との連携などにより、担い手の育成とともに農業者の組織化、既存組織の強化を図ります。

## 《取組み例》

- 農業振興事業
- 農業・農村活性化経営体づくり事業
- 特産物の栽培メリットの強化、付加価値の向上
- 流通経路の多様化
- 特産物を加工する他企業との連携

## ⑥ 農地の保全

農産物の生産振興により優良農地を良好な状態で保全するとともに、景観形成作物や地力増強作物など管理しやすい作物の導入やレンタカウなどを利用して、農地としての維持を図ります。

ゆとりや安らぎを与える農村環境を守る農業生産に転換していくため、地域ぐるみ農業者ぐるみの営農活動を支援します。

## 《取組み例》

- 農業委員会運営事業（農地利用調整等）
- 農業公社との連携
- 中山間地域等直接支払制度
- 農地・水・環境保全向上対策事業

## ⑦ 有害鳥獣対策の推進

有害鳥獣被害の拡大による農家等の生産意欲の低下を防ぐため、有害鳥獣の捕獲、被害防止施設の設置、鳥獣との共生（すみ分けの実施）などの被害防止対策を推進します。

## 《取組み例》

- 有害鳥獣捕獲事業
- 有害鳥獣被害防止施設設置事業

## ⑧ 農業生産基盤の整備

農道、ほ場、ため池、かんがい排水施設等の農業用施設整備を進めるとともに、農作業の省力化のため農業機械の整備を促進します。

※**レンタカウ**：レンタル カウ（牛）のこと。京都府畜産技術センター嵯高  
原牧場で飼育している繁殖用のメス牛を要望がある集落に対して貸し出  
し、遊休農地に牛を放牧する取組みが行われている。遊休農地は、草資源  
という考え。

## 《取組み例》

- 農道整備
- 小規模農業基盤整備事業
- 土地改良施設維持管理適正化
- ため池整備
- 農林漁業関係補助金
- 農業用施設の適正な維持管理

## ⑨畜産の振興

畜産を振興する上で家畜ふん尿による環境対策が大きな課題となっていることを踏まえ、堆肥化施設の整備と土づくりの推進により、適正なふん尿処理に努めます。

堆肥については、耕畜連携による利用促進を図ります。

## 《取組み例》

- 畜産振興対策事業
  - 家畜導入事業利子補給
- 堆肥センター処理機能の充実

## ⑩家畜伝染病の予防強化

平成16年2月の高病原性鳥インフルエンザの発生が養鶏業をはじめ産業全体に大きな影響を与えたことを教訓とし、関係機関と連携を取りながら定期的に飼養農家の巡回指導を実施し、再発防止に向けた伝染病予防対策の徹底を図ります。

## 《取組み例》

- 家畜伝染病予防対策事業
  - 予防啓発の推進
- 鳥インフルエンザ対策事業
  - 防鳥ネット助成

## ⑪耕畜連携の推進

整備した堆肥化施設により良質な堆肥の生産と利用拡大を図り、耕種農家と畜産農家との連携により減化学肥料・環境保全型農業を推進します。

堆肥の供給体制を確立し、堆肥ストックヤードの積極的な利用を促すとともに、ほ場等への直接搬入などに取り組みます。

## 《取組み例》

- 耕畜連携事業
  - 耕畜連携堆肥利活用推進事業
  - 堆肥活用施設（ストックヤード）設置
- 堆肥のスムーズな運搬、散布作業の推進

## ⑫農業関係団体との連携

府農業関係機関、農業公社、農業協同組合、その他農業関係団体等との連携を充実します。  
町内にある三つの農業公社（丹波ふるさと振興公社、瑞穂町農業公社、わちふるさと振興センター）については、組織の強化を図るため、統合を促進します。

### 《取組み例》

- 農業公社運営補助金
- 農業公社の統合

## (2) 林業の振興

### ①森林整備計画と森林施業計画の推進

本町の森林整備計画のマスタープランである「京丹波町森林整備計画」と森林所有者等による「森林施業計画」（造林・保育・間伐等）に基づき、適切な森林施策を推進します。

### 《取組み例》

- 京丹波町森林整備計画の推進
- 森林施業計画の推進

### ② 担い手の確保（林業後継者の育成）

林業従事者の高齢化等により担い手不足が進む中で、森林の整備・保全、さらには林業経営を担う人材を育成・確保します。

あわせて、住宅等の定住施策と連携した受け入れ態勢の整備、林業体験実習の推進などを通じて担い手の確保対策に取り組みます。

### 《取組み例》

- 緑の担い手育成事業
- 林業労働者新共済事業
- 森林組合作業班員育成事業補助金
- 山林作業共済補助金

### ③森林の保全と育成

良質木材の生産・供給をめざして森林の育成・整備を推進します。さらには、森林の持つ多面的機能の維持のため、間伐等による森林保全と複層林化、針広混交林化等を促進していきます。

### 《取組み例》

- 公有林整備事業
- 森林整備事業
- 森林整備地域活動支援交付金
- 不伐の森整備事業
- 森林災害復旧事業
- 生産森林組合運営推進助成金

## ④森林資源の有効活用

山並み等の良好な景観形成、保健保安林等における森林レクリエーションの場など森林の持つ多面的機能を本町の魅力的な資源として、観光レクリエーション施策に活用します。

林業労働力の確保による林業振興とあわせて、間伐材の有効利用による地域経済の活性化を図ります。

## 《取組み例》

- 緑の公共事業（森林適正整備推進事業）
- 多面的機能の観光レクリエーション施策への活用
- 間伐材搬出奨励事業

## ⑤林業生産基盤の整備

低労働力・低コストによる森林施業を行うため、計画的な林道等の基盤整備を進めます。

## 《取組み例》

- 林道等の整備
- 林道の適正な維持管理

## ⑥治山対策の推進

台風、集中豪雨等による森林や溪流荒廃（災害）の拡大、土砂、流木等の流出による二次災害を防止するため、森林の整備や治山施設の設置を推進します。

自然災害等により発生する山腹崩壊については、予知が困難であるため、防災施策と連携し下流域に位置する集落への避難経路の確認や連絡体制の強化を図ります。

## ⑦林業関係団体との連携

府林業関係機関、京丹波森林組合、生産森林組合、その他林業関係団体等との連携を充実します。

## (3) 水産業の振興

## ○内水面漁業の振興

アユ・アマゴの種苗（稚魚）放流事業を推進するとともに、河川環境の保全と調和した資源の維持・保全に努めます。

## 《取組み例》

- アユ・アマゴの種苗（稚魚）放流事業
- 漁場クリーンアップ事業



## (4) 京丹波高原ブランド化の推進

### ① ブランド産物（品）の確立と生産促進

中山間地域特有のほ場条件や小規模な営農組織といった生産環境にあることから、実需評価が高く、収益性の高い黒大豆・小豆をはじめ、みず菜・伏見とうがらし等のブランド京野菜、ほうれん草、ソバ、マツタケ、クリ、茶、良質木材などの生産拡大、さらには新たな農林産物の生産を促進し、本町ならではの産地づくりとブランド化を強力に進めます。

これらの産物を加工や直売、交流事業など多面的に利用するとともに生産者の組織化・法人化を進め、地域全体の経済力を高めます。

#### 《取組み例》

- 京の黒大豆・小豆等産地づくり事業
- 水田農業構造改革対策助成金の交付
- 集落営農組織育成等によるブランド化推進事業
- ソバ生産技術確立対策
- 町マツタケ振興会補助金
- 菌床しいたけ栽培農家補助金
- 栗生産振興対策事業
- 果樹園芸振興対策事業
- ブランド産物（品）のPR活動の強化
- 地域ブランド商標登録の推進

### ② 生産・流通・販売基盤の整備

黒大豆、小豆など付加価値の高い京丹波高原ブランドの農林産物について、生産から加工、流通、販売まで総合的な展開を図るためのしくみづくりを進めるとともに、地産地消や道の駅等を拠点とした消費者に直接販売するシステムづくりに取り組みます。

#### 《取組み例》

- 農林産物の販路拡大・販売
- 地産地消助成事業
- 野菜市促進
- 生産者と消費者とのネットワークづくり
- 地元企業との連携
- インターネット等による情報発信（PR）事業

### ③ 地域特性に合った食材・加工品の生産促進

環境や食味にこだわった売れるコメづくりと省力・低コスト化を推進（特別栽培米の生産）するとともに、黒大豆・小豆等の京丹波らしい栽培体系を確立させるほか、京都こだわり栽培指針に基づき安心・安全なブランド京野菜を生産するなど、自然、文化等本町の地域特性に合った特色ある食材の生産促進を図ります。

農薬や化学肥料の削減、堆肥の有効利用など、安心・安全な農産物の生産に取り組む農家を増やしていきます。

本町の農林水産物を生かした特産品の開発と生産拡大に向けた取組みを促進します。

《取組み例》

- 特産品加工グループ育成
- 特産品開発・加工の起業促進
  - 試作品・新規加工品開発と生産・販売拡大
- 安心・安全の産地等認証システムの導入

④観光交流との連携（グリーンツーリズムの推進）

わちふるさと農園、アグリパークわちなどの農林業体験公園施設、さらには農林家の日常生活活動において、町民の人情と本町の風土等にふれながら体験・交流できる体験・交流型農林業を展開します。

《取組み例》

- グリーンツーリズムの推進
  - 収穫体験付き農林産物販売
  - 貸し農園

## 2 商工業

### 現況と課題

#### 〔商業〕

商業は、近年の車社会の発達による日常生活圏の広がり、消費者ニーズの多様化・高度化による近隣の郊外型大規模店やスーパーマーケットへの流出、コンビニエンスストア・通信販売などの影響を受け、低迷が続いています。形態は、一部を除いてほとんどが個人経営の小さな商店で、日常最寄り品の販売が中心となっています。

#### 〔工業〕

工業は、近年、事業所数と従業者数は減少する傾向にあります。町内には、比較的規模が大きい食料品や飲料、化学製品などの製造業をはじめ機械加工業の工場、窯業（陶芸）の工房などが立地しています。また、工業団地（京都中央テクノパーク）が下山地区に整備され、45区画のうち9区画で7社が創業しています。

町では、固定資産に係る税の優遇措置をはじめ、地域振興につながる民間事業者等の事業活動に対し、地域総合整備財団の協力を得て設備投資資金を無利子で融資する制度（地域総合整備資金貸付）などを設けています。

#### ■商業の状況

調査年	商店数	従業者数	年間商品販売額
昭和63年	311	1,029	145億9,311万円
平成 3年	299	699	170億6,235万円
6年	286	1,187	175億 378万円
9年	284	1,228	184億7,748万円
11年	265	1,212	191億 502万円
14年	238	1,457	165億4,338万円
16年	229	1,247	156億4,342万円

商業統計調査（数値は旧3町の合計）

#### ■工業の状況

調査年	事業所数	従業者数	製造品出荷額
昭和55年	165	2,095	197億9,289万円
58年	164	2,065	197億5,906万円
60年	160	1,939	193億3,690万円
63年	137	2,055	261億9,350万円
平成 2年	138	2,138	329億 110万円
5年	131	2,072	376億6,905万円
7年	129	2,055	376億6,156万円
10年	139	1,816	355億5,153万円
12年	137	1,726	376億8,043万円
15年	124	1,622	350億3,937万円
17年	113	1,563	347億7,149万円

工業統計調査（数値は旧3町の合計）

## 計画

### 商工業の振興

#### ①商工業の経営安定

町商工会等と連携し、継続的な経営指導等による小規模事業者等の経営改善と経営の向上を図ります。

##### 《取組み例》

- 経営改善普及事業
- 利子補給
- 保証料補給

#### ②地域産業の育成

産地技術、農林水産物、観光資源等の優れた地域資源の活用など本町の特性や環境を生かした産業展開と起業の促進に努めます。

##### 《取組み例》

- 起業促進
- 特産品開発・加工の起業促進
- 京都府、町商工会との連携によるコミュニティビジネスの支援

#### ③商店（街）の活性化

消費者動向や消費ニーズの適切な把握と経営の見直しなどにより、便利で親しみやすい商店（街）づくりを促進します。

#### ④中心市街地活性化

本町の中心市街地の活性化について、既存商業との共存などに配慮しながら新たなまちづくりという観点から検討を進めていきます。

### 3 観光交流

#### 現況と課題

本町は、京都や大阪などの大都市圏から1時間圏という近接地域にありながらも丹波高原の豊かな自然が広がり、そこには魅力ある農作物が数多くあるなど、豊富な観光資源に恵まれています。特に、関西100名山のひとつに数えられ四季折々に美しく姿を変える「長老ヶ岳」、高さ40メートルの巨大な一枚岩を流れる水が琴の糸のような美しさを見せる「琴滝」、府内唯一の鍾乳洞がある「質志鍾乳洞公園」などは、個性的で魅力ある自然の観光資源といえます。

近年は、これらの豊かな自然を生かした観光施設やスポーツ・レクリエーション施設、社寺仏閣、伝統行事のほか、農林特産物加工販売施設や貸し農園など食文化の面からの新たな観光の展開が見られます。

今後は、道路、鉄道等交通の利便性が高まる中で、さらに多くの人びとが本町に訪れるように、これら観光資源のネットワーク化、地域全体としてのイメージ形成や誘客力の強化などにより、本町ならではの観光交流を強力に推進する必要があります。

#### 計画

##### 観光交流の推進

###### ①観光資源の発掘・整備

あまり知られていない町内の自然や歴史・文化財等を観光の資源として掘り起こします。特色ある工場の「ものづくり現場」の裏側など今まで観光資源として考えていなかった分野についても、事業者等の協力を得ながら観光の側面からの活用を図ります。

あわせて、町民が観光交流にかかわる者として位置づけ、来訪者が人情味豊かな町民性と、もてなしの心にふれられるよう、人材面における受け入れ環境の向上に努めます。

##### 《取組み例》

- わがまちの誇り・自慢づくり
  - 丹波高原文化の郷100選
  - 観光写真コンクール
  - 風景映像コンクール（眺望、借景等）
- 他分野の観光活用
- 受け入れ環境の向上
  - 観光ボランティアガイドの育成
  - もてなし意識の啓発

###### ②観光交流ネットワーク化の推進

本町全域を「丹波高原文化の郷」という観光交流の場としてとらえ、観光関係組織・団体や農林商工業等とも連携しながら、分散する町内の観光交流施設をはじめ「農」「食文化」など観光資源のネットワーク化を推進し、集客の相乗効果を図ります。

あわせて、観光資源とJR駅、道の駅等を結ぶ周遊ルート等の構築を図ります。

## 《取組み例》

- 観光資源のネットワーク化
- 観光周遊ルート等の構築
- 農林業等を活用した体験交流型観光

## ③産業等連携による複合型観光交流の推進

来訪者の多様なニーズにこたえられるよう、本町の豊かな自然や歴史的資源、農林業などを活用しながらさまざま観光交流を推進します。

ゴルフ場等既存の民間レクリエーション産業との連携を図るとともに、従来型の名所・旧跡を見るだけの観光にとどまらず、来訪者が地域の資源を生かした地域の産業を学び、体験し、地域住民と交流するといった新しいタイプの観光交流を展開します。

こうしたさまざまな取組みにより交流人口の増加を図り、さらには定住人口の増加へとつなげていきます。

## 《取組み例》

- 民間レクリエーション産業との連携
- 新しい観光交流の展開
  - 京丹波ツーリズムの構築
  - 農・食との連携等
  - 食品製造業との連携等

## ④情報発信・宣伝の充実

四季折々の観光に関する旬の情報、特産物、郷土料理など豊かな自然や歴史・文化等を生かした観光に関する情報をインターネットなどさまざまな媒体を通じて発信するとともに、テレビ、新聞などのマスコミと連携して宣伝していきます。

観光案内板については、通過交通の誘客にも重点を置き、表示がわかりやすく魅力ある内容として計画的に整備を進めます。

## 《取組み例》

- 観光情報発信
- 観光案内板の計画的な整備（サイン計画の策定）
- 観光マップ作成

## ⑤体験型イベント等による交流の推進

交流から定住へとつなぐ取組みのひとつとして、本町の豊かな自然や歴史的資源、農林業などを観光レクリエーションとして活用した体験型イベント等による地域レベルの交流を促進します。

## 《取組み例》

- 都市等との交流事業